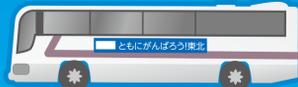


みんなの思いをカタチに!!



初めての

# ボランティアバス「関経連号」ができるまで

## プロジェクトの目的

- 直接的な支援の一環として現地の復旧作業に取り組む
- 被災地の実態を知り、今後の各企業による支援活動へフィードバックする
- 大規模災害時の企業・経済団体としての支援システム構築する

## 第1便 宮城県石巻市 2011年7月8日～11日(車中1泊、宮城2泊)

### 活動1日目 猛暑の中での側溝掃除

- 石巻市の住宅街(水明地区)の側溝掃除を実施
- 気温33度に達する猛暑
- 重い側溝の蓋を外し、側溝にたまったヘドロを土のう袋に入れる作業
- 班ごとに作業を分担して効率化を図る
- 作業終了後、津波で甚大な被害を受けた石巻港周辺を視察



### 活動2日目 津波注意報発令で作業中止

- 石巻市の住宅街(旭町地区)での側溝掃除を実施
- 活動開始直後に震度4の地震が発生
- 津波注意報の発令により活動中止の指示があり撤収



参加企業

伊藤忠商事、関西電力、クボタ、鴻池運輸、シーアイ繊維サービス、住友商事、住友電気工業、パナソニック、阪急交通社、バンドー化学、三井住友銀行、レンゴー、関経連事務局職員 計26名 (男性21名 女性5名)

## 第2便 宮城県南三陸町 2011年9月21日～24日(車中1泊、宮城2泊)

### 活動1日目 台風の影響により行程変更(被災状況視察、女将講演)

- 直撃した台風の影響により、仙台到着が大幅に遅延(夜22時到着予定が、22日朝4時半に到着)、参加者の体調を考慮し作業を中止
- 南三陸町では、山積みのがれき、鉄骨むき出しの建物が多数残る
- 道路の一部は地盤沈下と大雨で冠水状態
- 宿舎にて、震災直後の現場での判断・指揮、南三陸町の復興への思いについて女将の阿部憲子さんよりお話しいただく



### 活動2日目 がれきの分別作業

- 津波で流された住居跡にて、積み上げられた土砂に埋没しているがれきを「可燃物」、「金属」、「木材」等に仕分けする作業を実施
- 子供服、家電、漁具など住民の生活を感じられる物も見つかри、震災の悲惨さを実感



参加企業

岩谷産業、関西電力、鴻池運輸、シーアイ繊維サービス、竹中工務店、阪急交通社、阪急阪神ビジネスアソシエイト、バンドー化学、レンゴー、西日本経済協議会各団体職員：北陸、中部、中国、四国、九州経済連合会、関経連事務局職員 計40名 (男性32名 女性8名)

# ボランティアバス活動の流れ

## 企画

### 1 ボランティア活動内容の選定

- 活動内容として、①泥かき・がれき除去・物資仕分け等の「体力系」、②学習支援やお年寄りの傾聴など「プログラム系」、③外国語や栄養指導、カウンセリングなどの「専門系」の3つに大きく分類されます。関経連では「体力系」に取り組みました。

### 2 ボランティア活動場所の選定

- 被災地で必要とされるボランティアのニーズは地域によって大きく異なり、また刻々と変化しています。

## 準備

### 3 現地災害ボランティアセンター（VC）との調整

- 行き先に目星をつけたら、現地のボランティア受入窓口にて、ボランティアが受入可能か、また活動内容のイメージについて問い合わせましょう。受入人数がマッチせず、計画段階で行き先を変更することもありました。

### 4 旅行社との調整

- 参加者人数、旅程、費用など、当日のボランティアバス運営の流れについて具体化を進めましょう。また、現地の活動の中で危険な作業が伴うことがあるので、ボランティア保険に加入はマストです。

### 5 参加者の募集

- 行程が十分に固まっていなくても、日にちに余裕を見て参加者を募集しましょう。当日までに保険等の各種手続きを済ませる必要があります。

## 本番

### 6 出発

- いよいよ出発です。往路では、出発式や車内での他己紹介（自分のことを別の参加者から紹介してもらおうイベント）を行いました。これから約13時間のバスの旅路（大阪→仙台）です。

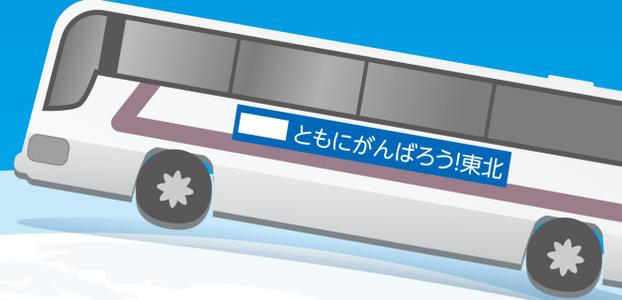
### 7 ボランティア活動

- まず、VCで当日の作業場所と作業内容を確認します。一般にボランティアは依頼があった先へ赴くため、出発の段階では、具体的な作業内容が分からないことは多々あります。その後VCスタッフの指示に従って活動します。
- 現地はまだインフラが復旧しておらず、また、余震も続いています。ボランティアにあたり大事なことは、自分の安全は自分で守ること。緊急時には、VCと連絡をとり、指示に従いましょう。
- 活動終了後は、VCで活動報告を行います。最終日には銭湯で汗を流し、帰路につきます。

## 反省

### 8 フィードバック

- 企業内部での活動報告、広報誌の掲載など被災地での経験を社内外へ発信し、各社の支援活動の拡充など復旧復興支援の輪を大きくすることに繋がります。



### POINT!

#### 情報源

現地の情報源としては、現地災害ボランティアセンター（VC）のブログ、社会福祉協議会、自治体のHPだけでなく、Twitter、Facebookも活用できます。

### POINT!



VC担当者に電話が繋がりにくい  
VCもボランティアが担当。思いやりの気持ちをもってアプローチしましょう。

### POINT!



#### 高速道路無料通行証の手配

VCあるいは現地社会福祉協議会から発行されるボランティア証明書を、大阪府庁等へお持ちください。高速道路無料通行証が発行されます。

### POINT!



#### 事前説明会の開催

希望者の中にはボランティア経験のない方が多数。  
参加者数が確定後、心得や活動中の服装などについて、事前説明会を開催。



#### ボランティアの恰好

暑くても寒くても、この図のとおり  
の準備ができていれば万全。  
ホームセンターでほとんどを調達  
できます。

### POINT!



#### 出発式

第1便では会長・副会長を中心に激励  
の言葉があり、士気が向上。

#### チームビルディング

他己紹介は翌日一緒にボランティアする  
仲間の団結力を高めるのに重要な  
作業。途中立ち寄るSAの食事も、参加  
者との交流の場になります。

### POINT!



#### 物品レンタル

スコップ、土のう袋、側溝蓋を取りだす  
器具など作業に必要な道具をレンタル  
します。

#### 被災者と被災地域への配慮

むやみな写真撮影など不用意な態度・  
行動は慎みましょう。ボランティアは現地  
の方との信頼関係で成り立つ活動です。



## 被災したホテルの現場から ～「南三陸ホテル観洋」女将の思い～

震災直後から宿泊者や近隣住民を全力で守った女将として、新聞報道等でも多く取り上げられた「南三陸ホテル観洋」の阿部憲子さん。今回、宿舎として利用させていただいた同ホテルにて、被災地の実態をさらに深く知るために、参加者向けにご講話いただいた。

### 「7日間維持できる食事を」

- 震災前から教訓としてあった「地震イコール津波」の考えから、地震後すぐ、お客様と従業員を迅速に安全な場所に避難させた。
- 周辺道路が寸断され、ホテルは孤立した。調理場の責任者に対し、今ある食材で7日分維持できる料理を指示した。

### 「地元の人と産業を守りたい」

- 学校等にいる避難者をホテルで受け入れることにした。その際、南三陸町の将来の「人口」と「雇用」を維持するため、「子どものいる家庭」、「経営者がいる家庭」を優先的に受け入れた。
- 今、コンビニなどのチェーン店が仮設の店舗を出して南三陸町を支えてくれているが、一方で地元資本の商店がなくなってしまうのではないかと危機感も持っている。

### 「子どもたちに憩いの場を」

- 避難先でバラバラになった子どもたちのために、ホテルのロビーを図書館として開放したり、寺子屋を開くなどして、憩いの場、コミュニケーションができる場を提供している。



被災地では、個人も企業も弱体化している。

**多くの方にとにかく被災地に来ていただき日本中にこの災害の教訓を知ってもらいたい。**



## 住民の方からの温かいメッセージ

### 「この御恩は一生忘れません」

- ボランティア活動終了後、発車するバスを見送りに来てくださった地元町会長から「この御恩は一生忘れません」というお礼の言葉をいただいた。また、活動中は住民の方から、缶コーヒーやキュウリの差し入れを頂き、作業の疲れも吹き飛ばすほど、参加者一同感激した。
- 遠く離れた東北と関西だが、心と心でつながることができた。現場だからこそ得られた貴重な体験である。



## 関経連ボラバスプロジェクトチームメンバーから



産業部 鍵田智也 (2009年入局)

石巻、南三陸の復旧スピードの差やボランティアニーズの違いなど、被災・復旧状況は現地に行ってみないと分からないことを痛感した今回の企画でした。メディアでは伝わらない、しかし、現地で必要とされている活動はまだまだ多く残っているので、その声に継続して応えていけたらと思います。

経済調査部 山下善寛 (2010年入局)

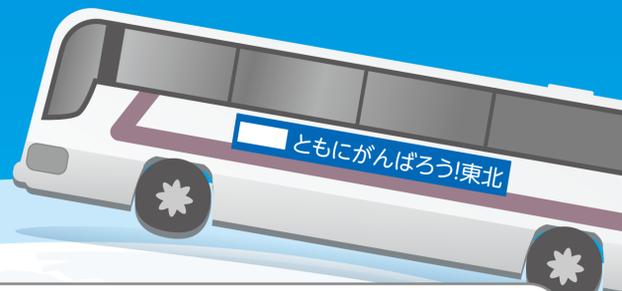
バスの発車までには、多くのハードルがあり最初は無理だと思ったプロジェクトでしたが、これまで2回無事成功することができました。参加者や被災地の方からの感謝の声、また自分で被災地を見てこれからも続けて行かなければならないと強く決意しました。

企画広報部 壺井秀一 (2005年入局)

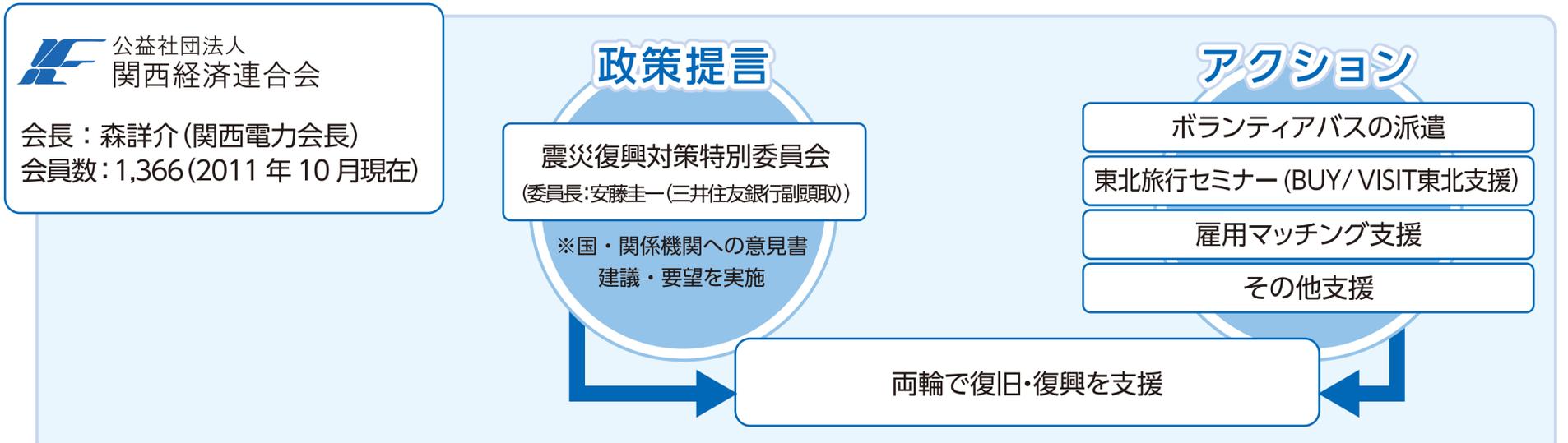
PTメンバーも全員人生初のボランティア体験で、手探りで進めてきましたが、参加いただいた皆さんとともに、大きな経験をすることができました。また、現地を肌で感じたことによって、自分自身へのニュースの入り方なども変化しました。これから先、この町が復活を遂げていく姿と一緒に見ていきたいですし、そのお手伝いも継続的にさせていただきたいと思っています。

# ともにがんばろう! 東北

## ～関西経済連合会の震災復興支援活動～



### 政策提言・アクションの両面から支援



### 主な復興支援の取り組み 平成23年11月現在

- 3月 11日 「東北地方太平洋沖地震」(東日本大震災) 発生
- 14日 関経連に「東日本大震災対策・支援本部」(本部長:奥田専務理事)設置、発信。
- 17日 東北経済連合会に対し義援金1,000万円を拠出

---

- 4月 18日 「震災復興対策特別委員会」(委員長:安藤三井住友銀行副頭取)を設置
- 19日 大阪労働局、近畿経済産業局、大阪府・市等とともに「『日本はひとつ』大阪しごと協議会」に参加。被災者の大阪での雇用・就労支援と情報発信開始。
- 26日 提言「東日本大震災からの復興に向けた第1次提言～一日も早い復旧・復興と日本経済の回復に向けて～」発表(関経連、大商、京商、神商、関西経済同友会の5団体連名)  
 当面必要とされる課題について政府等に提言するとともに、関西経済界としての取り組みを示した。

---

- 5月 9日 関経連HPIに東北支援サイト「ともにがんばろう!東北」を開設  
 「BUY東北運動」の紹介ならびに地域産品購入サイト「あじの細道」の告知・リンクを開始。
- 12日 震災復興対策特別委員会による第1回東北視察(仙台市)実施。在仙の鴻池運輸、レンゴー、竹中工務店、日本政策金融公庫を訪問、視察・意見交換。
- 13日 西日本経済協議会として「東日本大震災からの復興に向けた西日本からの第1次提言」発表。政府・関係機関に郵送建議。
- 23日 定時総会会員懇親パーティーにて東北各県産の食材を使用した料理を提供。

---

- 6月 10日 提言「電力需給と風評被害にかかわる緊急提言」発表  
 (関経連、大商、京商、神商、関西経済同友会の5団体連名)電力需給と風評被害への政府の対応を求めた。海江田経済産業大臣、枝野官房長官等に要望書を手交。  
**大阪労働局と連携し、被災者に対する雇用支援スキームを創設**
- 16日 提言「東日本大震災からの復興に向けた第2次提言～復興計画の早期策定と復興財源のあり方～」発表  
 (関経連、関西経済同友会連名)復興計画の早期策定とともに、財源確保に向けた歳出削減の徹底、民間資金等の活用を提言。

---

- 7月8日～11日 ボランティアバス「関経連号」を宮城県石巻市に派遣
- 15日 「東北旅行セミナー」開催  
 企業の社員旅行・研修旅行等の東北地方での実施を促進するため、旅行会社4社からのプラン提示を含めたセミナーを実施。成約に至った例も。
- 21日 「第6回けいはんなビジネスメッセ」(主催:関西文化学術研究都市推進機構)にて東北経済連合会・中小企業基盤整備機構東北支部と連携し、東北企業9社を紹介するブース「ファイト!東北」を設置。

---

- 8月 24日 東日本大震災を教訓に、東南海・南海地震を想定したBCP(事業継続計画)の見直し等に関する「企業防災セミナー」を開催。

---

- 9月 16日 京都・兵庫労働局、京都・兵庫経協と連携し、被災者に対する雇用支援スキームを京阪神に拡大。
- 21日～22日 震災復興対策特別委員会による第2回東北訪問(宮城県、東北経連、東北経済産業局、岩谷産業エネルギー東北支社との意見交換)実施。
- 21日～24日 ボランティアバス「西経協号」(「関経連号」第2便)を宮城県南三陸町に派遣

---

- 10月 6日 「西日本経済協議会第53回総会」開催  
 来年度より東北地方の経済団体、行政等との定期的な懇談の機会を設け、オール西日本で産業復興に向けた支援を実施していくことを表明。
- 18日 西日本経済協議会、「東日本大震災からの早期復興と新しい日本の創生—西日本からの提言」を政府に要望  
 震災からの早期復興、災害に強い国づくり、わが国の産業競争力の強化、持続可能な社会を目指した制度改革、の4点を柱とする総会決議文を藤村内閣官房副長官、奥田国土交通副大臣、五十嵐財務副大臣ほかに手交。
- 18日～19日 「大阪創造取引所」の開催  
 東北復興応援企画として、東北コンテンツの紹介ステージプログラムや東北3県PRブースを設置。
- 26日 村井嘉浩・宮城県知事講演会開催  
 関経連会員企業向けに、宮城県の復興ビジョンを紹介。関西企業の宮城県への投資促進を支援。



※肩書は全て実施当時のもの